

## 論説

# 中国の語文教育

—語文課程標準を基礎資料として—

三野園子

## 0. はじめに

修士論文(三野 2007)では、中国人普通話話者<sup>1</sup>と日本人普通話学習者が普通話朗読時どのようにポーズ<sup>2</sup>をとるか、その数、位置、長さなどについて調査し、比較を行った。その結果、中国人普通話話者(以下中国人とする)は日本人普通話学習者(以下日本人とする)に比べ、ポーズ数が少なく、同じ箇所でもポーズを取る割合が高く、ポーズを取る位置は標点符号上<sup>3</sup>とほぼ一致し、ポーズの秒数が短いことがわかった。

朗読音声録音後中国人被験者にアンケート調査及びフォローアップインタビューを実施したところ、「小学校で標点符号とポーズ長についての関係を学んだ」、「ポーズは標点符号の位置で行う」等の回答を得た。しかし、小学校での標点符号及び朗読教育について「記憶にない」という意見も多く、中国の語文<sup>4</sup>教育の現状を文献調査、実地調査することが必要であると感じた。

そこで、本稿では日本の学習指導要領に相当する中国の「全日制義務教育語文課程標準」から第一部の前言及び第二部の課程目標を訳出し、中国の教育部が目指している語文教育を分析することにした。

## 1. 研究方法と研究資料

### (1) 研究方法

中国の語文に関する具体的な分析を行う前に、中国の教育方針制定等に関し先行研究<sup>5</sup>を中心にまとめ、次に「全日制義務教育語文課程標準」を参考に、中国での語文教育の前言及び目標を考察する。

## (2) 研究資料

日本では小学校の教育内容や教科書作成は、文部科学省の発行する『小学校学習指導要領』に基づいているが、中国では教育部から発布された「基礎教育課程改革綱要(試行)」(2001)をもとに具体的な教育内容を制定した「全日制義務教育語文課程標準」(2003)を参考にしている。そこで本稿では中国の語文教育を分析するため「全日制義務教育語文課程標準」を参考とした。

## 2. 現代中国の教育課程と教科書作成

中国では新中国建国以後、1986年に初めて「義務教育法」が制定され、全国規模の義務教育が施行された。義務教育を決定づける二本柱として、教育課程とその授業時間などについて定めた「課程計画」と、各科目の内容について定めた「教学大綱」が挙げられる。これらはどちらも中国教育部から発布されたもので、これに基づき各省、自治区、直轄市<sup>6</sup>は義務教育をすすめ、教育部から委託された人民教育出版社が教科書を作成し、教師は授業を執り行っていた。

### (1) 「教育方案」・「課程標準」への流れ

義務教育を実質的に制定した「課程計画」と「教学大綱」であったが、時が経つにつれ、現代中国にそぐわない内容となった。そこで教育部は、より地域に根ざした教育課程、教育内容を目指し、2001年6月教育部発布の「基礎教育課程改革綱要(試行)」に基づき、「課程標準(実験稿)」を同年7月に発布、続いて新教育課程を定めた「義務教育課程設置実験方案」(略称：教育方案)を同年11月に発行し、近年の実質的な教育改革路線を推進し始めた。

従来の義務教育制度から新たな義務教育制度への最も大きな変化は、全国的な教育水準の統一化、エリート教育を目標とした「教学大綱」を改め、あらゆる地域に対応できる教育<sup>7</sup>、あらゆる者に大きく門戸を開いた教育を主眼とした「課程標準」を定めたことであった。

21世紀に入り、教育改革が起こった理由としては、90年代に興った試験対策のための「応試教育」への反省だとの指摘もある<sup>8</sup>。現在では「応試教育」からの脱皮を目指し、生徒の資質の成長を促す「素質教育」への変革を図っ

ている。

## (2) 国定教科書制度から審査制の導入へ

従来は教科書といえば人民教育出版社一社の国定教科書制がしかれており、他社や他の編集委員の作成による教科書の発行は認められていなかった。しかし時代の要請を受け、競争原理の導入から、1986年より実質的に教科書は国定制から審査制の導入がなされ、近年では「教育方案」・「課程標準」に基づいた地域独自の教科書作りが始まっている。現在多数の出版社から教科書が発行されている。

## 3. 全日制義務教育語文課程標準の構成

### (1) 全日制義務教育語文課程標準の学年構成

現在中国では小中学校9年一貫制をとっており、学年の呼称は小学校では1年から6年、中学では7年から9年とされている<sup>10</sup>。

9年間の学年構成は1~2年生、3~4年生、5~6年生、7~9年生の4段階に分けられ、小学校6学年が3段階に分けられる構成は日本と同じである。この構成の目標とするところは、全日制義務教育語文課程（以下語文課程標準とする）を4段階に分けることで、各段階の目標を明確にし、且つ全体の中での役割を再認識することである。

### (2) 語文を構成する5項目

先述した4段階構成の全てに共通の項目は従来の「識字と書字<sup>11</sup>」、「閲読」、「作文」、「会話コミュニケーション」<sup>12</sup>の4つのほかに、語文課程標準では新たに「総合的学習」の項目が設けられた。総合的学習は語文とその他の教科、日常生活とのかかわりを強化し、学生の聴き取り、会話、読み書きなど語文能力の総合力推進とそれらの能力を調和向上させることを目指している。

### (3) 語文課程標準の構成

語文課程標準は大きく3部分に分かれており、最後に付録が付けられている。以下に詳細を記した。

第1部の前言は「課程の特徴とその位置」、「課程の基本理念」、「課程標準計画の構想」の3項目。第2部の課程目標は「総目標」と「段階目標」の2項目。第3部の実施提案は「教材編纂提議」、「課程資料の開発と利用」、「教育案」、「評価案」の4項目。付録は「優秀詩文暗唱推薦図書案」、「課外読書案」、「文法修辞知識の要点」の3項目からなっている。

以上の内容のうち本稿では第1部及び第2部の訳出を行った。

## 4. 前言とその特徴

### (1) 第1部

#### 前言

現代社会は良好な人文的素養と科学的素養を必要とし、創造的な精神を備え、協調性があり、視野の広さを具えた公民を求めている。閲読理解、表現力やコミュニケーションなどを含めた多様な基礎能力や現代技術を利用した情報処理能力も必要とされる。語文教育は必ず現代化社会に必要とされる新しい人材育成に大きな作用を及ぼす。社会発展の必要にともない、目的と方法等を振り返り、システムの改革を行う。

9年義務教育語文課程の改革は、マルクス主義と科学的教育理論を以って指導し、我が国の語文教育の成敗得失をまとめ、各国母語教育改革の経験を参考にし、語文教育の規律に従い、現代社会発展に寄与するにふさわしい、語文課程の建設に努める。更に学生 の 思想道徳資質及び科学文化的資質等の育成において、必要な役割を発揮する。

#### 課程の特徴とその位置

語文は最も重要なコミュニケーションツールであり、人類文化の重要な構成要素である。ツール性と人文性を併せ持つ点が語文課程の基本的な特徴である。語文課程は学生の語文素養の形成と発展に寄与しなければならない。語文素養は他課程の基礎となり、学生の総合的な発展と生涯発展の基礎となる。語文課程の多くの重要な要素と基礎固めの作用は、9年義務教育段階の重要な地位を決定付けている。

## 課程の基本理念

### I 学生の総合的語文素養の向上

9年義務教育段階の語文課程は、全ての学生と向き合い、学生に基本的な語文素養を習得させることが求められる。語文課程では学生の祖国の語文を愛する思想感情を育み、母語の正確な理解と運用を指導する。語彙を豊富にし、語感を育て、思惟を発展させ、実践に適した識字書字能力、閲読能力、作文能力、会話コミュニケーション能力を身につけさせる。語文課程はさらに学生の人徳修養、情趣審美の向上を重視し、良好な個性と健全な人格を着実に形成させ、徳、智、体、美の調和発展を促すことが求められる。

### II 正確な語文教育特徴の把握

語文課程が内包する豊富な人文内容は学生の精神領域への影響が強く、広大であり、学生の語文資料への反応はまた往々にして多面的である。それらを考慮し、語文薰陶の影響作用を重視し、教育内容の価値に注意する。同時に学生の学習過程における独自の感性を尊重するべきである。

語文は実践性の強い課程であり、学生の語文実践能力を育成しなければならない。また、語文能力を養う主要な目的は実践であり、語文の知識全体の把握や習得にこだわるべきではない。語文はまた、母語教育の課程であり、学習材料と実践の機会はいつでもどこにでもある。そのため、学生に更に多く語文材料に直接触れさせ、多くの語文実践段階で語文運用の規律を掌握させるよう努める。

語文課程ではまた漢字の特質が、識字書字、閲読、作文、会話コミュニケーションと学生の思惟発展等の領域に影響を与えることを考慮しなければならない。教育上最も重視すべきは良好な語感と全体を把握する能力を伸ばすことである。

### III 自主的且つ協力的で、探究型の学習方法の積極的な取り入れ

学生は学習と発展の主体である。語文課程は学生の心身発達と語文学習の特徴に基づかなければならない。学生個々の差異、異なった学習要求に注意し、学生の好奇心、知識欲を大切にし、学生の主体的な意志と進取の精神を

支持し、自主的で、協力的且つ探究型の学習方法を勧めていく。教育内容の確定、教育方法の選択、評価方法の設定は全てこれらの学習方法を形成する一助となるべきである。

語文の総合的な学習は学生が興味を持ち、自主的に活動する中で語文素養を全体的に向上させるのに適している。総合的な学習は学生の主体的な探究、団結協力、勇んで新しいものを創出する精神養成の重要な過程であり、積極的に提唱すべきである。

#### IV 開放的且つ活用力のある語文課程の建設に努める

語文課程は現実に基づき、世界を見据え、未来を見つめるべきである。語文学習や運用領域を拡張させ、学科と現代科学技術の枠を越え、学生が異なる内容と方法を相互に活用し、浸透させ、整合する過程で、視野を広げさせる。更に、学習効率を上げ、現代社会に求められる語文実践能力の初歩的な習得を目指す。

語文課程は開放的且つ創造力豊かで、異なった地域、学校、学生の要求及び社会の要請に応える必要がある。学生は常に自らをコントロールし、更に進歩していくことを目指す。また、その時代の情報化の進展に細心の注意を払い、語文課程の変革と発展を促す。

#### 課程標準計画の構想

I 課程目標は9年一貫性をとる。課程標準は“総目標”の下、1~2年、3~4年、5~6年、7~9年の4段階とし、“段階目標”を定め、語文課程の総合性と段階性を具体化する。

II 課程目標は知識と能力、過程と方法、情感態度と価値観の3つの項目から計画を立てる。三項目は相互に関連しあい、三位一体となり、語文素養の総合的な学力向上に臨む。各段階は互いに関連し、螺旋状に向上することにより、最終的に総目標を達成することを目指す。

III 段階目標は“識字と書字”、“閲読”、“作文”(1~2年生は“写話”、3~6

年生は“习作”)、“会話コミュニケーション”の4項目からなる。課程標準では更に“総合的学習”の項目を掲げ、語文課程とその他の課程及び日常生活との関連を深め、学生の語文素養の総合的推進と調和発展を促す。

IV 段階目標の“実施提案”では、教材の編纂、課程資料の開発と利用、教育、評価等についての実施の原則、方法及び計画を提起しているが、実際の教育現場を念頭に置き、創造の余地を与えている。

## (2) 前言の特徴

前言から、中国では語文教科に語文の教育のみならず、人文分野に強く、科学的な素養も備えたコミュニケーション能力に長けた人材の育成をも求めている。また情報処理能力など、以後の生活に役立つと思われる能力を語文でも教育することを目指している。

更に、従来の教育への反省と他国の母語教育を参考にする旨が記載されているが、後述する語文課程標準の目標には日本の『学習指導要領』と類似する点が多々見られた。優れた人材の育成のためには、他国の教育を参考にし、積極的に取り入れていく中国の姿勢が見られる。

また、前言で科学的素養の必要性を述べているのは、鄧小平が「わが国が世界の先進水準に追いつくためには、何から着手すべきか。私は科学と教育から着手すべきだと考える。」<sup>13</sup>と述べていることと無関係ではないであろう。

## 5. 課程目標とその特徴

### (1) 課程目標

#### I 総目標

- ①語文を学習する上で、愛国主義の感情、社会主義、道徳品性を育み、積極的な人生态度と正しい価値観を着実に形成し、文化品位と情趣審美を高める。
- ②中華文化の深遠な豊かさを認識し、民族文化の智慧を吸収する。現代の文化的な生活に関心を持ち、多様な文化を尊重し、人類の優れた文化の営みを理解する。
- ③祖国の言語文字を愛する心を育て、語文学習への自信と良好な習慣を養い、

最も基本的な語文学習の方法を掌握する。

④言語能力の向上と同時に、思维能力の向上、想像力と創造力の潜在能力を引き出す。実際に基づき正しく行動をおこし、真実を尊重する科学的な態度をとり、初歩的な科学的思考方法等を着実に身につける。

⑤主体的に探求する学習態度を身につけ、実践の中で学習し、語文を活用する。

⑥ピンインを身につける。普通話をはさめるようにする。3,500字前後の常用漢字を読めるようにする。正しく整った漢字を書けるようにし、更に一定の速度を持つ。

⑦独力での閲読能力を備え、感情体験を重んじ、多くの読書経験を積み、良好な語感を形成する。多くの閲読方法を身につける。初歩的な理解や文学作品の鑑賞ができ、高尚な情操と趣向を育み、個性を伸ばし、精神世界を豊かにする。補助書物を用い、簡単な古典を読めるようにする。9年間の授業外閲読総量は400万字以上を超えるようにする。

⑧具体的で明確、流暢で字句も適切な文章で自己表現ができるようにする。日常生活で必要とされ、多く使用されている表現方法を用い作文する。

⑨日常の会話コミュニケーションの基礎能力を備え、あらゆる社交的な場面において、耳を傾け、表現をし、交流する。文化的に人との意思疎通を図り、社交を学び、協調性を養う。

⑩常用する補助書物の使用方法をマスターする。初歩的な収集能力と情報処理能力を身につけさせる。

## II 段階目標

段階目標は中学を含め4段階に分類されているが、ここでは小学校6年間の3段階を取り上げる。

### 第1段階（1~2学年）

#### 識字と書字

①漢字の学習を好み、主体的に識字に取り組む姿勢を持つ。

②常用漢字1,600~1,800字、その内800~1,000字を書けるようにする。

- ③漢字の基本筆画と常用の偏と旁の部首を把握する。筆順の規則に従い、硬筆で字を書く。筆面の配り、構成に注意する。初歩の段階では漢字の形の美しさを感じさせる。
- ④正しい書字姿勢と良好な書字習慣を養う。規範的で、正しく整った字を書写できるようにする。
- ⑤ピンインをマスターする。声母、韻母、声調と音節全体を読めるようにする。音節を正しくピンインで読めるようにし、声母、韻母と音節を正しく書けるようにする。ローマ字を読むことができるようにし、『漢語ピンイン字母表』をしっかりと覚える。
- ⑥ピンインの補助により漢字を読めるようにする。アルファベット順、部首検索で辞書を引けるようにし、1人で識字学習ができるようにする。

## 閲読

- ①閲読を好み、閲読の楽しさを感じさせる。
- ②普通話で正しく、なめらかに、感情を込めて本文を読めるようにすることを学ぶ。
- ③黙読を学び、声を出さず、指をささずに読めるようにする。
- ④読み物の中の絵をたよりに閲読する。
- ⑤本文と日常生活の関わりを実感させ、文中の語句の意味を理解し、閲読によって語句を増やしていく。
- ⑥分かりやすい童話、寓話、物語を閲読し、美しい情景への憧憬を持たせる。自然と生命にも関心を持たせる。興味を持った人物や出来事に対し自身の感想や考え方を持ち、人との交流を楽しむ。
- ⑦わらべうたや童謡、簡単な古典（訳者注—日本語の漢詩に相当）を朗読し、想像力を広げ、初歩の情操体験を得、言語の美しさを感じ取る。
- ⑧本文中によく見られる標点符号<sup>14</sup>を覚える。閲読中の句点、疑問符、感嘆符の異なる語気を体得する。
- ⑨自身の好んだ成語や格言警句を積み重ね身につける。優秀詩文 50 篇を暗唱する。授業外閲読総量は 5 万字を下回らないこと。
- ⑩本を好み、書籍を大切にする。

## 写話<sup>15</sup>

- ①写話に興味をもち、自分の伝えたいことや、想像上の出来事を書き、周りで起こった出来事についての見方や、感想を書き出す。
- ②写話の学習によって、閲読と日常生活で学んだ語句を使うことを楽しむ。
- ③表現の必要に応じて読点、句点、疑問符、感嘆符の使い方を学習する。

## 会話コミュニケーション

- ①普通話話し、普通話話す習慣を徐々に身につける。
- ②他人の話に注意深く耳を傾け、話している主要な内容を理解するよう努める。
- ③物語を聞き、ビデオ作品を見て、大体のあらすじと精彩に富んだ内容を自分の言葉で表現する。
- ④ほぼ正確に出来事話すことができ、うまくまとめて興味のあることを話すことができるようにする。
- ⑤自然で堂々とした態度で人と話し、礼儀正しくする。
- ⑥表現に自信を持つ。積極的に討論に参加し、興味のある話題について意見を発表する。

## 総合的学習

- ①周囲の出来事に興味を持ち、興味を持った事柄について問題提起をし、授業外閲読と関連させ、全体で討論する。
- ②語文学習とあわせ、自然を観察し、口頭または絵や文などの方法で自分が観察したことを表現する。
- ③学校や、地域の活動に熱心に参加する。活動とあわせ、口語または絵や文などで見聞きしたことや考え方を表現する。

## 第2段階 (3~4 学年)

### 識字と書字

- ①漢字学習に強い興味を持ち、自主的な識字習慣を身につける。
- ②常用漢字 2,500 字を身に付け、その内 2,000 字前後を書けるようにする。

- ③字典、辞書を使えるようにし、自力で識字ができる一定の能力を身につける。
- ④硬筆による楷書に熟達し、規範的で正しく整った漢字を書けるようにする。毛筆で手本を模写する。

## 閲読

- ①普通話で正しく、なめらかに、感情を込めて本文を読めるようにする。
- ②初歩的な黙読能力を身につける。本文で理解できない部分について疑問を提起する。
- ③前後の文のつながりを理解し、語句の意味を理解する。本文中の鍵となる語句が文の中で情感を表すのに最適であることを感じ取る。字典や、辞書及び日常生活での語彙の蓄積を利用し、新出単語の意味を理解する。
- ④文章の主要な内容ある程度把握し、文章表現の思想感情を体感する。
- ⑤叙述的な作品の大意を自分の言葉で述べ、作品中の生き生きとした事物や優美な言葉を感じ取り、他の人と自分が閲読で得た感想を話し合う。
- ⑥語句を理解する過程で、句点と読点の異なった使用法を学び、コロンや引用符号<sup>16</sup>の一般的な用法を理解する。
- ⑦略読を学び、文章の大意を理解する。
- ⑧本文中の美しい語句や精彩に富んだ文章及び授業外の閲読と日常生活で得た言葉を身につける。
- ⑨優秀詩文を朗読し、朗読中の情操体験に注意を向け、優秀詩文 50 篇を暗唱する。
- ⑩本を読み、新聞を読む習慣をつけ、本を収集し、クラスメートと図書資料を共有する。授業外閲読総量は 40 万字を下回らないこと。

## 習作<sup>17</sup>

- ①周囲の出来事に関心を持ち、書くことによる表現を楽しみ、作文能力に自信を持つ。
- ②形式にこだわらず、見聞きしたこと、感想、考えたことを書き出し、目新しく、面白いと感じたこと、または印象深く最も感動した内容を表現する。

- ③自ら望んで自分の書いた作文を人に聞かせ、他の児童と作文の楽しさを享受する。
- ④簡潔な書簡や書状を書き、書面での交流を行う。
- ⑤文を書くときに普段覚えてきた言葉の知識を活用し、特に新しい語句を用いるようにする。
- ⑥表現の必要性に応じ、コロンや引用符号を使用する。
- ⑦書いた文章にはっきりとした誤りがあるときは訂正する。
- ⑧授業での作文は各学年 16 回前後とする。

#### 会話コミュニケーション

- ①普通話を使用し他の人と話をする。人と話すときは、相手の話に耳を傾け、要点を理解し、理解できない時は相手に確認する。異なった意見について他の人と討論する。
- ②人の話を聞き、主要な内容を把握し、さらにそれを簡潔に述べる。
- ③見聞きしたことははっきりと明確に述べ、更に自分の感想や考え方を述べる。
- ④具体的、主体的に話をし、言葉を用い、人の心に訴えかけるよう努める。

#### 総合的学習

- ①学習や生活上の問題を提起し、目的を持って資料を収集し、合同討論をする。
- ②語文学習とあわせ、自然や社会を観察し、観察から得たことを書面と口頭のどちらでも表現できるようにする。
- ③教師の指導下で楽しい語文活動を行うよう心掛け、活動を通して語文を学習し、協力することを学ぶ。
- ④家庭生活や学校生活で、語文の知識と能力を用い簡単な問題解決を図る。

#### 第 3 段階 (5~6 年生)

##### 識字と書字

- ①自力で識字する能力を高める。常用漢字 3,000 字を読めるようにし、その

内 2,500 字前後の漢字を書けるようにする。

②硬筆で楷書を書き、字配りを整え、一定の速度で書けるようにする。

③毛筆で楷書を書き、書字によって漢字の美しさを感じ取る。

## 閲読

①普通話で正しく、なめらかに、感情を込めて本文を朗読する。

②黙読は一定の速度を保ち、一般の読み物で毎分 300 字を下回らないよう黙読する。

③辞書を使い閲読し、ある語句がその言語環境においてどのような意味であるかを理解し、語句のニュアンスを読みとる。

④本文と今までに習得した言葉とを結びつけて考え、本文中に関連ある語句があった場合、その意味を推測し、その表現効果を感じ取る。

⑤閲読中は文章の表現順序に注意し、作者の思想感情を感じ取る。文章の基本的な表現方法を理解する。他人との交流や討論中に、進んで自身の見方を提起し、自ら物事の判断をする。

⑥説明文を読み、要点をつかみ、基本的な説明の仕方を理解する。

⑦叙事文を読み、出来事の梗概をつかみ、印象深い情景、人物、場面を簡単に描写し、喜び、憎悪、尊敬、憧れ、共感等の感情を口頭で表現する。詩歌を読み、詩の意味を大まかに理解し、詩歌に描かれている情景を思い浮かべ、作者の感情を感じとる。優秀作品から感化や励ましを受け、憧れをよせ、美しい感情を保つよう努める。

⑧文章を大雑把に読むことを学び、知識を広げ、必要な情報を収集する。

⑨本文を理解する過程で読点（訳者注一並列を表す読点と文中の読点）、セミコロんと句点<sup>18</sup>の異なる使用方法を理解する。

⑩優秀詩文を朗読する。詩文の声調やリズム等を通し、作品の内容や情感を味わう。優秀詩文 60 篇を暗唱する。

⑪図書館、インターネット等情報網を利用し、探求心に富んだ閲読を進めていく。閲読量を増やし、授業外閲読量は 100 万字を下回らないようにする。

## 習作

- ① 作文理解は自己表現と他の人との交流のためであると認識する。
- ② 周囲の出来事に注意を払い、観察する習慣を養い、意識的に自身の見聞を広める。自分自身の独特な感性を大切にし、作文材料を集めておく。
- ③ 簡単な記実文と創作文を書けるようにし、具体的且つ事実に基づく内容が書けるようにする。表現の必要に応じて、段落分けを行う。
- ④ 随筆やよく目にする応用文を学習する。
- ⑤ 表現の必要に応じ常用の标点符号を用いる。
- ⑥ 自分の作文を訂正し、主体的に他の児童と作文を交換し修正する。語句の順序、配置を正しくとり、しっかりと規範的に書く。
- ⑦ 授業内作文は各学年 16 回前後とする。40 分で 400 字を下らない作文を完成させる。

## 会話コミュニケーション

- ① 人との交流においては相手を尊重し、理解する。
- ② 討論に参加することを楽しみ、自分の意見を臆することなく述べる。
- ③ 他人の話をまじめに辛抱強く聞き、要点をつかみ、異なった言葉で簡潔に伝える。
- ④ 筋道の通った話し方をし、語気やイントネーションは適切に行う。
- ⑤ 交流相手や場面に応じ、僅かな準備で簡単な発言ができるようにする。
- ⑥ 交流において美しい言葉を使い、非文明的な言葉は使用しない。

## 総合的学習

- ① 学習と生活に関わる問題を解決するために、図書館やインターネット等の情報網を利用し、資料を集め、簡単な研究報告書を書く。
- ② 簡単な学内活動と社会活動を計画し、計画のテーマについて討論と分析を行い、活動計画と活動総括の書き方を学ぶ。
- ③ 身の回りの出来事や、全員が共通して感じている問題或いはテレビや映画の情報や人物について、討論会を準備し、特定のテーマについて意見を述べ、是非や善し悪しの判断を学ぶ。

④初歩的な資料の探し方や、資料の使い方の基本方法を理解する。

## (2) 課程目標の特徴と考察

以上列記した語文目標は段階ごとの目標を設定しているが、段階が上がるに従って目標水準も高くなっている。以下にその特徴をまとめ、考察を行った。

### I 識字と書字

#### ①漢字学習

段階目標では未就学児に識字書字に対する興味を持たせ、まず識字力を高めることが求められており、次に書字能力の向上を目指している。

また硬筆毛筆それぞれで正しく字を書くことが望まれているが、その際書字の姿勢から始まり、偏や旁、楷書の正しい習得も求められている。また漢字の字体の美しさを追求する目標が随所に見られ、漢字に対する美意識の強さを感じさせる。

段階目標では授業以外での自主的な学習態度の養成を促しており、特に辞書類を参考にした自習を勧めている。周知の通り、中国の普通話では書面的な言語表現において漢字を用いることが一般的なため、漢字の種類も多く、類似した形、音、意味の漢字の誤字、誤用が生じやすい。また中国人にとって漢字の習得水準の高低は他の教科の学習や、以後の生活諸々に大きな影響を与える可能性が考えられ、正しく漢字を習得することが望まれる。また学習を開始したばかりの生徒にとって学習方法の基礎固めともなるため、低学年での指導は教師にとって最も頭を悩ませる問題であるとも言える。

#### ②数値目標

段階目標では随所に数値目標や速度に関する記述が見られる。識字と書字に関する数値目標は、識字できるようになるべき漢字と書字できるようになるべき漢字の目標数が異なっている。以下表1に詳細を記す。

表1 識字と書字の段階別目標数(字)

段階・学年	識字	書字
第1段階・1~2年	1,600~1,800	800~1,000
第2段階・3~4年	累計 2,500	累計 2,000
第3段階・5~6年	累計 3,000	累計 2,500

※書字の漢字数は識字でき、更に書字できる漢字数を表している。

以上の数値目標を日本と比較することができるであろうか。日本の小学校6年間の漢字習得数目標は1,006字<sup>19</sup>であるが、日本の場合漢字以外に平仮名、片仮名、送り仮名、音読み、訓読みの別などの習得の必要性を考慮すると一概に中国の漢字習得目標数が多いともいいきれない。中国の常用漢字数は3,500字、日本の常用漢字数は1,945字ということ考慮に入れ計算してみると、中国では約86%、日本では約52%の漢字を小学校で習得しなければならない。また西欧に比べ、当然文字数は圧倒的に中国、日本が多く、漢字学習は児童にとっては大きな負担となっている。

## II 閲読

語文の5つの項目の中で目標数が最も多いのが閲読である。その理由としては、中国で閲読は声を出して読む場合の朗読と、声を出さずに読む黙読とに分かれていることが挙げられる。また閲読教育では日本に比べ、読みに関する技術や朗読での表現力、更に読解力が求められていることも目標数増加の原因となっている。以下で閲読目標の詳細を述べる。

### ① 閲読教育の狙い

全学年共通の総目標には「学習用普通话正确、流利、有感情地朗读课文。」(普通话を用いて本文を正しく、流暢に、感情を込めて朗読する)と記されているが、中国では早い段階で本文に書かれた内容を理解させ、声を使い登場人物や書き手の考えを表現することが望まれている。このような訓練は、会話コミュニケーションと連動させることで日常や授業時の会話能力を養い、

朗読以外の場でも役立つことができる。

また先述したとおり、閲読には朗読以外に黙読があり、発音、朗読など声を出しての学習を済ませた児童は、次に声を出さずに読むという黙読能力を訓練することになる。黙読を訓練することで、読書量を増やし、普通話に接する機会を多くすることもねらいとなっている。

方言が多い中国では普通話を用い意思の疎通を図ることが多いが、閲読教育は普通話習得の入門の役割を果たしている。

## ②自主的な読書の促進

閲読では読書の習慣を付けるために辞書など工具書を使い自ら進んで読書し、新聞を読むことなどが目標に掲げられている。3～4年生では図書館の利用が始まり、5～6年生ではインターネットを使用した「探究心に富んだ」読書が目標となっている。高学年では図書館やインターネットで情報を集め、読書への関心を強めさせ、更に総目標にも掲げられている情報処理能力をつけることがねらいとなっている。

## ③文章理解

文章を読解する際の注意点として、多義語がその文の中でどのような意味になるかを理解すること、その文章の要点をつかむこと、前後の文脈のつながりに注意することが挙げられている。しかし詩に関してはその内容の大意をつかめばよいとされている。

また本文の意図を考えることや、作者が表現している情景を想像することも文章理解の助けとなるため、目標に掲げられている。

## ④読書法

中国では読書方法として、朗読、黙読以外に文章の大意をつかむ略読などがある。略読とは細かい描写などに目を留めず、その文章の大意や要点をつかむ読み方のことである。日本の速読に近い読書法を中国では小学校の3～4年生という早い段階で導入している。実際に中国では読む速度を速める訓練を低学年から始め、それにより頭を俊敏に働かせる訓練を行っている<sup>20</sup>。

### ⑤表現力とコミュニケーション

段階目標では読後の感想をまとめ、自分の言葉で表現することが望まれている。原文には「復述」という言葉が何度か使用されているが、これは一度聞いたり読んだりした内容を自分の言葉に置き換えて表現するという意味である。それには読んだ内容を正しく理解し、更に自分の学習した範囲で他の言葉を使い表現しなくてはならない。正しい「復述」は、語彙を増やす努力をし、適した言葉を取捨選択できる高度な技術を身に付けることによって初めて可能となる。

また 1～4 年生では、他の児童と読後の感想や意見を述べあうことで、コミュニケーションをとれるようにするという目標が掲げられている。閲読と言えば、読むことが中心と捉えられがちだが、中国では積極的にコミュニケーション能力を養う訓練の場ともなっている。

### ⑥数値目標と速度に関して

閲読教育においても数値目標と速度に関する記載がいくつか見られた。

#### a. 暗記目標と閲読総量

以下に段階別優秀詩文の暗記目標と授業外閲読総量をまとめる。

表 2 優秀詩文と授業外閲読総量の段階別目標

段階・学年	優秀詩文	授業外閲読総量
第 1 段階・1～2 年	50 篇	5 万字を下らない
第 2 段階・3～4 年	50 篇	40 万字を下らない
第 3 段階・5～6 年	60 篇	100 万字を下らない

中国では 2001 年発布の「基礎教育課程改革綱要」の具体目標に「受身的な学習や棒暗記、機械的訓練の現状を改め、学習者が主体的に参加し、探求を楽しむ」<sup>21</sup>むことを謳っている項目がある。そのため以前に比べ詰め込み式学習や暗記暗唱を強要せず、宿題も課されなくなったとされているが、実際

にこの数値を見る限りでは、授業外でも暗記や読書に割く時間は長いと推測された。

表2の授業外閲読総量を日本の新書で換算してみると、6年間の総計で、新書10冊～12冊分ほどとなった<sup>22</sup>。但し、日本語の送り仮名に相当するものがない中国語での閲読量となると10～12冊以上の情報量があると考えられる。

次に中国の小学校の教科書で考えてみよう。人民教育出版社の小学校語文教科書の1年生下巻は1頁あたりの文字数が多くて約210文字、178頁、6年生の下巻の1頁あたりの文字数が多くて約576文字、174頁であった。授業外閲読総量145万字は1年生では約6,905頁、6年生では2,517頁に相当する。これは1年生下巻の教科書で約39冊分、6年生下巻で約14冊分に相当する。教科書の14冊分～39冊分の授業外閲読総量はかなりの閲読量になる。段階目標はあくまでもこの標準に達すべき数値が掲げられているため、教師はこれに基づいて授業外学習を勧めるしかなくなるであろう。

日本の『学習指導要領』には暗記すべき詩や授業外の読書目標などの数値は記載されていない。

#### b.速度に関する記述

速度に関して1～4年生では具体的な目標はないものの、上述した略読をすすめており、朗読速度にこだわりが見られる。

5～6年生では「一定の速度を保つ」ことや、「一般の読み物で毎分300字を下回らず黙読する」ことが目標に掲げられている。一般に中国の放送局がニュースを読む場合、1分間に200字前後とされているが、聴覚印象では相当速く感じられる。もちろん声を出して読むよりも黙読する速度の方が速いが、それを考慮に入れても小学校5～6年生には相当高い要求ではないだろうか。

普通話では、漢字一文字に複数の意味がある<sup>23</sup>。当然二文字以上の漢字を組み合わせた単語もあるが、それにしても日本語の送り仮名を含んだ文章を読むよりも、内容量が多いのではないだろうか。それを考慮すると、黙読や略読をするにはよりいっそう単語の意味や内容の理解速度を速めなくてはな

らなくなると言えるだろう。

### ⑦標点符号に関して

1～2年の段階で標点符号を覚えることが望まれているが、中でも句点、読点は、6年間すべての目標に見られた。句点や読点を理解することは、漢字が延々と並ぶ普通話の文章の切れ目を理解し、読解の助けとなる。また教科書本文の標点符号の使用方法は作文の模範となるため、まず閲読学習で標点符号を理解しておくことが必須となる。

## Ⅲ作文

作文は学年によって名称が違い、1～2年生では「写話」、3～6年生では「習作」となっているが、その違いについてここでは記載されていない。内容から、写話は自分の伝えたいことを簡単な文章にすることを意味し、「習作」は「写話」より更に具体的且つ高度な表現の使用を意味する。以下では全体を把握するために「作文」で統一する。

1～2年生では作文を楽しむことや作文に興味を持つことが目標に掲げられているが、3～4年生ではより具体的な技術に関する目標が増えていく。作文をする上で必要となる技術としては、標点符号の使用や、感想文以外に書状や記実文など必要に応じた文体が書けるようになることが挙げられている。また隣の児童と作文を交換し、文章を修正しあうといった目標も見られた。

### ①標点符号

標点符号に関しては、まず読点、句点、疑問符、感嘆符の4つを使いこなせるようにする。次にコロン、引用符号と並列を表す読点と続き、最終的に全ての標点符号が使えるようにすることが目標とされている。句点、疑問符、感嘆符の3つに関しては閲読目標でも同じく第1段階で見られ、文の切れ目に用いる読点を含め、この4つが最も基本となる標点符号となっている。

### ②文章の種類

作文目標では感想文、書簡、書状、記実文、創作文など様々な形式の文章

を書けるようにすることが求められている。目標の文章形式は種類が多く、高度に感じるが、一方日本の『学習指導要領』にも「手紙を書く」<sup>24</sup>、「記録文や学級新聞」<sup>25</sup>を書く、「礼状や依頼状などの手紙を書く」<sup>26</sup>とある。小学生が書く内容としては難しく感じられるのではないだろうか。これらの文章形式についての具体的な内容は書かれておらず、教科書にゆだねられている。

### ③文章の訂正

文章の訂正について、第2段階の目標には「書いた文章にはっきりとした誤りがあるときは訂正する」と書かれており、第3段階になると更に「他の児童と作文を交換し訂正する」とある。作文した児童が自ら誤りを見つけるのは難しいが、他の児童にとっては容易だろう。また、文章を訂正するだけでなく、他の児童と自分の作文レベルを比較することや、作文をする際に良い緊張感を持つことで、事前に関違いを減らすこともできる。

### ④数値目標

作文に関する数値目標は、第2段階の「作文は各学年16回前後とする」、第3段階では再び繰り返し「作文は各学年16回前後とする。40分で400字を下回らない作文を完成させること」の2つとなっている。

現在小学校の語文授業時間数は第2段階、第3段階どちらも210~231時間ほどで、その内の7~8%を作文時間にあてている。日本の『学習指導要領』によると、国語の授業時間の内、「文章を書くことを主とする指導」<sup>27</sup>にあてる時間数は授業時間数の約30~36%となっている<sup>28</sup>。作文時間と指導時間の差異を考慮に入れても、明らかに中国よりも日本は「書くこと」に時間を割いており、『学習指導要領』には「文章を書く活動をなるべく多く」するようにとの記載がある<sup>29</sup>。

文字数に関して、田中(2004)は第4段階の作文が「45分で500字以上ということ、内容としては、日本語で1,000字以上に相当する」<sup>30</sup>としている。これを参考に、時間数は異なるものの、文字数を単純に2倍として考えると1授業800字程度の内容量となる。小学生にはかなりの作文量ではないだろうか。

#### IV 会話コミュニケーション

総目標には「日常の会話コミュニケーションの基礎能力を備え、あらゆる社交的な場面において、耳を傾け、表現をし、交流する」とあるが、段階目標では語文授業内で人と接する際の態度から始まり、表現の仕方について学ぶことが望まれている。また、積極的に討論に参加し、意見を述べることも重視されている。

##### ①人の話を聞く

小学校の低学年児童には、まだ人の話を黙って聞くという習慣が完全に身に付いていない。そのため段階目標では他人の話に耳を傾けることが求められている。3~4年生でも同様の目標があるが、5~6年生だけは更に強調して「他人の話をまじめに辛抱強く聞くようにと書かれている。5~6年生になると考え方や表現がはっきりし、多少長い文章を話せるようになるため、そのような状況下でも相手を尊重し、話をしっかりと聞くことが要求されている。また人の話を聞くことによって生じた考えを自分らしい表現で話すことが求められており、これが会話やコミュニケーションの基本となることを学ぶ。

##### ②表現方法

表現方法に関する目標には、会話中要点をうまくまとめて表現すること、語気やイントネーションに気をつけるというような記載もあるが、第2段階の段階目標には「努力用语言打动他人」（言葉を用い、人の心に訴えかけるよう努める）とある。小学校の3~4年生から人の心を揺さぶるような表現をさせるという点にも、中国の語文教育の特徴が現れているのではないだろうか。

また、言葉以外の面では「自然な堂々とした態度で、礼儀正しく」することや、自分の意見を「臆することなく」述べる等、中国人が話す際にどのような点に気をつけているかがわかる。

## V総合的学習

総合的学習の全ての段階に「合同討論」、「語文と生活を結び付ける」、「資料収集」の3つの目標が掲げられていた。つまり、総合的学習では語文授業と日常生活を結びつけ、何らかの社会活動への参加か、何らかの社会問題等について事前に適切な資料を収集し、討論を行い、問題解決をはかることを目標としている。しかし目標には具体的に何を行うかについては明記されておらず、授業内容は省や学校、教科書、教師用指導書、教師等に委ねられている。

## 6. まとめ

中国の語文教育の特徴はすでに取り上げたが、語文目標全体から中国では語文教科に表現力の養成を求めている。課程標準の目標には「积累」という言葉が多々見られるが、これは積み重ねを意味する。未就学であった児童は語文授業で、教科書等を繰り返し朗読し、黙読や暗記をすることによって多くの言葉や表現を蓄積し、それを取捨選択することによって初めて適切な表現ができるようになるのであろう。

また、段階目標では人前で堂々と自分の意見を話すことが求められている。前言にも記されていたように、語文教育は国際社会を見据えて行われなければならない、その意味でも児童の表現力はもちろん人前で話す際の態度等コミュニケーション能力の育成が重要な課題となっている。実際に授業では、1人または数人で教壇の前に立ち発言すること、朗読すること、歌うことなどが頻繁に行われているが、このような取り組みもまたコミュニケーション能力育成の一環となっている。

また語文課程標準では数値目標が明確に記載されているため、具体的な授業設定がしやすい反面、児童は授業外に長時間の勉強を強いられている。しかしこのような高い設定を「標準」とすることで、中国教育部は最低限の語文レベルを保つことを目指しているのであろう。

語文課程標準にはたびたび「自主的」という言葉が現れるが、語文教育では授業内外を問わず、生徒が積極的且つ自主的に学習を進められるよう指導を行っている。児童が授業のみに頼らず自主的に学習できるよう訓練をし、

以後の生活において、自ら積極的に何事にも進んで行動できるよう目標を立てている点が長期的視野に立った中国式の建設的教育と思われた。

## 註

- 1 普通話とは北京語音、北方語彙、代表的な現代白話文の著作の文法を標準とした中国の共通語のことを指す。三野(2007)では中国人普通話話者として、北京に生まれ、北京に18歳もしくは、18歳以上まで生活した者を被験者とした。
- 2 中国では発話時の無音区間を「停頓」と称するが、一般に日本の音声学用語ではこれを「ポーズ」と称する。停頓とポーズは厳密に言えば等価ではないが、ここでは便宜上ポーズの名称を用いる。
- 3 標点符号とは日本語の句読点や文章記号に相当する。
- 4 中国では「国語」を「語文」と称するため、以下「語文」に統一する。
- 5 『国語科系教科のカリキュラムの改善に関する研究—歴史的変遷・諸外国の動向—』(2002)及び『中国の教育改革と新しい教科書—歴史教科書を中心に—(最終報告)』(2006)を参考にした。
- 6 香港・マカオの特別行政区は中央政府の教育制度の枠に含まれない。
- 7 地域性の重視、対応については、都市部と農村部、沿海地域と内陸地域での経済格差、文化の違い、更に各地域の民族性にも考慮し対応することが考えられる。
- 8 諸外国の教科書に関する調査研究委員会(2006)『中国の教育課程改革と新しい教科書—歴史教科書を中心に—』・郭黎岩ほか主編(2001)『中小学教学 新大綱及教材分析 小学語文』
- 9 人民教育出版社以外に、北京師範大学出版社、華東師範大学出版社、四川教育出版社、中央教科所他多数。
- 10 現在でも小学校5年制をとる地域もある。
- 11 書字とは日本の国語教科の書写に相当する。
- 12 課程標準では「识字与写字, 阅读, 写作(小学一到二年级为“写话”, 三到六年级为“习作”)、口语交际, 综合性学习」の5つに分類されている。
- 13 牧野篤訳出。牧野篤(2006)『中国変動社会の教育』
- 14 日本語の句読点や、文章記号に相当する。
- 15 20頁参照。
- 16 コロン(:)は以下に詳細を記述する際に用いる文章記号。引用符号は“”で表す。

17 20 頁参照。

18 この文章では「頓号」と「逗号」を同じく読点と訳したが、本来は違った役割を持ち、異なった文章記号で表されている。普通話では単語などの並列を表す際に頓号（、）を用い、文の区切りなどには逗号（，）を使用する。セミコロン（；）は、二つ以上の同等な文章を並列する際に用いる。

19 文科省発行の『小学校学習指導要領』第一節国語の別表「学年別漢字配当表」には第一学年 80 字、第二学年 160 字、第三学年 200 字、第四学年 200 字、第五学年 185 字、第六学年 181 字とある。合計で 1,006 字となる。

20 三野園子(2007)『中国語朗読に於る停頓について』日本中国語学会関東支部第一回拡大例会ハンドアウト参照。

21 田中智生(2004)「中国における教育改革の動向—語文教育を中心に—」より田中智生訳出文抜粋。『三省堂 国語教育「ことばの遊び」』株式会社三省堂

22 [http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question\\_detail.php?queId=329090](http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail.php?queId=329090) を参照した。ここでは新書 1 頁が 600 字ほどとされ、1 冊は 200 から 250 頁ぐらいであり、一冊は 12~15 万字とされている。これにより算出した。

23 それだけでは文成分に成り得ない虚詞などの例外もある。

24 文部科学省(2006)『小学校 学習指導要領』13 頁

25 同 13 頁

26 同 16 頁

27 同 16 頁

28 日本の国語の授業時間数は 1 年生 204 時間、2 年生 210 時間、3~4 年生 176.25 時間、5 年生 135 時間、6 年生 131.25 時間となっている。『学習指導要領』(16 頁)では「文章を書くことを主とする指導」について、年間で 1~2 年生 67.5 時間、3~4 年生 63.75 時間、5~6 年生 41.25 時間の目標を定めている。

29 文部科学省(2006)『小学校 学習指導要領』16 頁

30 註 20 に同じ。

## 参考文献

新編新しい国語編集委員会・株式会社東京書籍編集部(2005)『新しい国語 教師用指導書指導編(朱書き編)』1 年上~2 年下 株式会社東京書籍

新編新しい国語編集委員会・株式会社東京書籍編集部(2005)『新しい国語 教師用指導書 研究編』1 年上~2 年下 株式会社東京書籍

新編新しい国語編集委員会・株式会社東京書籍編集部(2005)『新しい国語 教

師用指導書 ワークシート編』1年上～2年下 株式会社東京書籍  
 大村彰道他編(2006)『文章理解の心理学』北大路書房  
 門田修平(2007)『シャドーイングと音読の科学』コスモピア株式会社  
 何平華(1989)「日中両国における小学校国語教育思想の比較 —「学習指導  
 要領」から—」『学芸口語教育研究』第5 東京学芸大学口語科教育研究室  
 国語教育班(2002)『国語科系教科のカリキュラムの改善に関する研究 —歴  
 史的変遷・諸外国の動向—』教科等の構成と開発に関する調査研究 研究領  
 域2 各教科等のカリキュラムの改善に関する研究  
 諸外国の教科書に関する調査研究委員会(2006)『中国の教育改革と新しい教  
 科書 —歴史教科書を中心に— (最終報告)』教科書研究センター  
 田中信一(1987)「中国の小学校における二つの国語教育実験」『語学研究』第  
 48号  
 田中智生(2004)「中国における教育改革の動向 —語文教学を中心に—」『こ  
 とばの学び』第六号 (株)三省堂  
 角田栄子他(2005)『あたらしい国語』一年上下 株式会社東京書籍  
 角田栄子他(2005)『新しい国語』二年上下 株式会社東京書籍  
 牧野篤(2006)『中国変動社会の教育 —流動化する個人と市場主義への対応』  
 (株)勁草書房  
 三野園子(2007)『中国語朗読に於る停顿について』日本中国語学会関東支部  
 第一回拡大例会ハンドアウト  
 三野園子(2007)『关于汉语停顿 —以实验分析为中心—』明海大学大学院 応  
 用言語学研究科修士論文  
 文部科学省(2006)『小学校 学習指導要領』平成10年告示 平成15年12  
 月一部改正 国立印刷局  
 文部科学省(2007)『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社  
 郭黎岩主编(2001)《中小学教学 新大纲及教材分析 小学语文》当代世界出版  
 社 于北京  
 课程教材研究所・小学语文课程教材研究开发中心编著(2007)《义务教育课程  
 标准实验教科书语文》一～六年级上下册 人民教育出版社 于北京  
 课程教材研究所・小学语文课程教材研究开发中心编著(2007)《义务教育课程  
 标准实验教科书语文 教师用书》一・二年级上下册 人民教育出版社 于北  
 京  
 中华人民共和国教育部《全日制义务教育语文课程标准(实验稿)第一部分前言・  
 第二部分课程目标》人民出版社网站  
 网站地址: <http://www.pep.com.cn/xiaoyu/jiaoshi/xypx/biaozhun/>

「课程标准・解读」を参照

(d074744@hiroshima-u.ac.jp)